

文部省選定

優秀映画鑑賞会推薦

民俗芸能の心

月と大綱引き



月と大綱引き

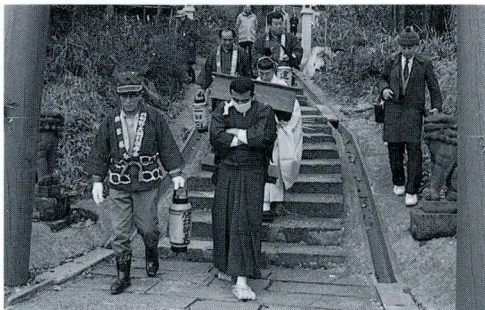
—— 三隅治雄 ——
(実践女子大学教授)

綱引は、元来信仰行事であった。正月15日、7月15日、9月15日……と、綱を曳く日が、各地で特定されていたのも、これらが祭りの日の行事と考えられていたからである。

15日は、旧暦では満月の日であった。正月と7月の15日は、古い信仰では、先祖の神さまが子孫の村をたずねにこられる日、8月15日はまた神に芋・豆などを献じて収穫を感謝する祝日といわれてきた。皎々と中天に輝く月は、人々には神の姿にも見え、また神の来臨を照らす光にも思えたのであろうか。そして、このときを期して、綱引をするのは、来臨する神のもたらす恵みを、わが土地に迎え入れたい願望からのものであったかと思われる。

地区対抗で綱を引き合って、勝った方を豊作と占うところもあれば、綱を引くには引くが、あくまで地区内の祭事で、最後は女組が勝つことにして、神のめぐみを引き寄せたと喜ぶところ、地区内を東西に分けて、最後は西方の勝ちにして東方からの神の来臨を迎え入れたと喜ぶところ、勝ち負けなしに、満月の真下に月の形そのままの綱の輪をつくって祝うところなど、日本全土にさまざまな形の綱引が行われて、われわれはそれを見ることで、久しく農耕社会を形成してきた日本人の民俗生活のありようや、その心ばえなどを知ることができるのである。

加えて、沖縄各地に見る綱引の形態が、韓国におけるそれと酷似し、しかもその行事の根底に流れる民俗の共通性は、われわれに、日本と隣国との文化の親近性、さらには変化交流の歴史の密にして久しかったことを痛感させる。おそらくこの交流の輪はさらに大きくアジア地域にも広がろうかと予想されるが、そうした示唆を含めてこの記録映画のもつ意義は大きいと思う。



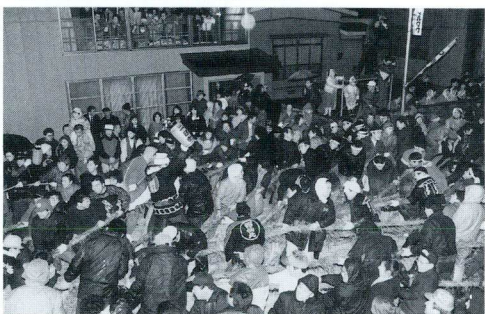
綱引き前の儀礼として、その年の厄年の男性が御神体を背に綱引き場に向う



長さ46メートル、直径約73センチ、重さ10トンの大綱(刈和野)



大勢の男女によって編まれる大綱(坊津)



秋田県・刈和野の大綱引きは旧暦の一月十五夜の晩に行われる

映画制作にあたり

大西竹二郎 (演出)

十五夜というと、その晩は近所の柿を盗んでも叱られないというので悪ガキ仲間と竹竿を持って、うろついた子供のころを思い出す。東京での遠い思い出だが、それに比べ、この映画で取材した各地域には、なんとも形容し難い、豊かな伝統文化が伝わっていることか、あらためて感嘆させられる。

十五夜行事としての大綱引きは、ライスロード、(そんな呼び方があるのかわからないが) 農耕が伝わった道筋に点在していることは確かなようだ。

稲作が朝鮮半島から北九州へ上陸したと実証されている現時点では、伝播のコースについては、私としては朝鮮半島からのコースに関心が持たれる。というのも「記紀」などに記されている新羅の王子、天之日矛の渡来説話からも明らかなように、朝鮮半島からの古代の渡来コースには、瀬戸内海コースと日本海コースがあったことがわかっており、古代にあっては、日本海側が、表日本ではなかったのかという、見直しとも関係している。日本海側には、但馬や福井などにも大綱引きがおこなわれており、秋田も、また、日本海側である。

朝鮮半島との関係は、古代史や考古学の研究成果により、様々な情報が増えてきているが、南方諸島を経ての農耕伝播に関する文献は、いまだに少ないように見受けられる。

それだけに、民俗面からの考察が、更に重要になってくると思われ、興味はつきない。

映画の中では、ふれる時間がなかったが、綱引き終了後、あの大綱は、韓国では、厄除けと招福祈願に切って持ち帰り、日本でも、綱を切ったり、厄を綱にたくして、川で流したりする行事がおこなわれたことを付記しておきたい。



九州薩摩半島の坊津海岸



綱引きの後、韓国では、厄除けと招福を願って綱を切って持ち帰る



五穀豊穡への祈りを込めて大綱は引かれる



十五夜当日、昼間から女子は晴れ着で行列し神社に参集する



綱引きをまつ秋田県刈和野の雄綱・雌綱



坊津・上の坊では綱引きが終ると、千切れた綱で月の輪をつくる



沖縄・与那原では雄綱と雌綱を丸太で結び合わせて引き合う



女の子達による坊津の十五夜踊り



鹿児島・坊津町／上の坊の綱引き



韓国慶尚南道靈山の綱引きの農楽隊

作品名：シリーズ〈民俗芸能の心〉
「月と大綱引き」
(35mm/カラー33分)

企画：(財)ポーラ伝統文化振興財団
制作協力：東京シネ・ビデオ株式会社
監修：三隅治雄
協力：任 東権 (韓国中央大学教授)

制作スタッフ：プロデューサー・横川元彦
齋藤重男

脚本・演出・大西竹二郎

撮影・川尾俊昭

上村四四六

岩淵 弘

撮影助手・須原秀晃／常田高志

榎林久男／前田 智

照明・徳永 忠

照明助手・渡辺勝二／梨木幸三

録音・深田 晃 (福島音響)

編集・作間清子

タイトル・たくみ映画

現像・ソニーPCL

音楽・長沢勝俊

ナレーター・伊藤惣一

撮影協力：文化庁文化財保護部

沖縄県与那原町

鹿児島県坊津町

鹿児島県知覧町

秋田県西仙北町

刈和野大綱引保存会

韓国慶尚南道靈山綱引保存会

資料提供：岩崎美術社 出石神社

Pola Foundation for the Promotion of Traditional Japanese Culture

公益財団法人 **ポーラ伝統文化振興財団**

<http://www.polaculture.or.jp>

〒141-0031 東京都品川区西五反田 2-2-10 ポーラ第2五反田ビル

TEL.03-3494-7653 FAX.03-3494-7597